

造影CT検査の効率化と安定稼働を手助けする CT用インジェクター「Stellant D Dual Flow」

長野県厚生農業協同組合連合会 南長野医療センター篠ノ井総合病院



〒388-8004 長野県長野市篠ノ井会666-1

TEL：026-292-2261

病床数：433床

診療科目：内科／糖尿病・内分泌・代謝内科／心療内科／腎臓内科／呼吸器外科／心臓血管外科／精神科／呼吸器内科／消化器内科／循環器内科／リウマチ科／小児科／外科／消化器外科／整形外科／形成外科／脳神経外科／臨床検査科／皮膚科／泌尿器科／肛門外科／産婦人科／眼科／耳鼻咽喉科／リハビリテーション科／放射線科／麻酔科／救急科／病理診断科／歯科口腔外科。CT 3台、MRI 2台、血管撮影装置1台。同院放射線科は放射線科医3名、診療放射線技師18名、看護師3名、医療事務2名で構成されている。



使用CTインジェクター： Stellant D Dual Flow

「無事是名馬」で14年

篠ノ井総合病院放射線科では県下で初の16列MDCTをはじめとして、最新鋭のCT装置を積極的に導入している。しかし、CT用インジェクターはバイエルの「Stellant D Dual Flow」が実に14年稼働し、現在は同院で最新の2管球128スライスCTで使用されている。「10年以上同じインジェクターを使い続けている当院のような施設も珍しいと思いますが、『Stellant D Dual Flow』はそれができるとにかく頑丈です。一度だけ天吊りアームが脱落してしまったことがありますが、本体が壊れたことはほとんどないですね」。長谷川 実氏（南長野医療センター篠ノ井総合病院放射線科部長）はバイエルのCT用インジェクター「Stellant D Dual Flow（以下、Stellant）」について、こう絶賛する。同院とStellantとの歩みは、16列MDCTの導入の歴史とともにあると言っても良い。平成14年12月に長野県内で初めて16列MDCTが稼働し始めた際、Stellantが合わせて導入された。以来、大きなトラブルに見舞われることなく稼働し続け、同院のスタッフにとっては最も馴染んだ、使い勝手の良い装置となっている。

3部屋のCT検査室では1日当たり約70件前後の検査が行われ、造影検査はその中の1/3を占める。Stellantは2015年に導入されたシーメンスの2管球128スライスCT「SOMATOM Definition Flash(以下、Flash)」との組み合わせで、平均して1日当たり2、3件行われているという冠動脈・心臓の造影CT検査でも活用されている。

オート機能が造影検査を強力サポート

通常、Stellantを用いた検査の手順は次のようになる。単純CT撮影後に看護師が穿刺をして、造影剤シリンジとの接続を行う。このとき、インジェクターに造影剤シリンジをセッティ

ングをするのは診療放射線技師である。三方活栓に接続した生理食塩液（以下、生食）を一部使用し、撮影体位での逆血確認をしたのち、患者に注意事項を説明。ここまでの手順を済ませたのち、造影剤の注入を開始する。デュアルインジェクションの際には、純正のCT用デュアルインジェクションシリンジに生食を適宜吸い上げ、セットしている。手作業で生食を造影用シリンジに移し替えることは診療放射線技師や看護師にとっては面倒な作業であるが、Stellantではその手間を大幅に省くことができる。

Stellantには検査効率を向上させる複数のオート機能が搭載されている（図1）。特にシリンジ製のプランジャー後端を自動で検出してピストン（装置側）とドッ



▲図2 ギロチンタイプでシリンジをホールドするため、シリンジのセッティングは向きを気にしなくてもよい

▼図1 ボタン1つでオート機能を楽々使いこなせる!



